

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第 21 回全国の集い in 北海道 2015 企画紹介文

企画名	
ある地域での医療者の教育と育成の現状とこれから ～寿都町での 10 年間～	
開催日時	2015 年 10 月 12 日 月曜日・祝日 午後 13:10～
対象者（対象とする職種や参加いただきたい方）	
保健・医療・福祉関係者全般、住民の方	
企画概要／	
【背景】 寿都町は 3200 名程度の漁師町で、町立寿都診療所は今年で設立 10 周年を迎えている。その間、数多くの研修医や学生らに研修を提供し、彼らを世に送り出してきた。現在、彼らの多くは地域で家庭医として住民の方々のために家庭医療を実践してくれている。	
【目的】 現場でその様子を見守り、協力していただいていた方々の発言を通して、どのようにして地域で医療者は育つのかを理解し、明日から育成について少しでも意識し実践してみようと思えること。	
【方法】 シンポジウム形式。パネリストとその発言内容については以下の通り。	
① 奥山盛さんはもともとは道立寿都病院から町立寿都診療所へ移管する際に北海道から寿都町へ出向しておられた。その後、地元である和寒町で町長になられ、現在今までのご経験を活かしご活躍中である。今回は道と町の両方の立場でどのようにこの教育システムを見守ってこられたかをご発言いただく。	
② 西弘美さんは保健師として診療所外から地域連携についての重要性、有用性を実践を通して家庭医に問いかけ続けてきた方である。その中で家庭医について期待することなどをご発言いただく。	
③ 宮本久美さんは診療所の看護師長である。現在に至るまでに他施設での勤務後、当診療所へ入職し、主任を経て現職となったが、その時々で家庭医療の研修医らに感じてきたもの、これからの教育で必要な要素などをご発言いただく。	
④ 今江章宏先生は 3 年前に北海道家庭医療学センターの後期研修医として寿都診療所で研修を行った。他の施設での研修の後に、再度当診療所へ戻られ、現在はフェロー（端的にいうと所長見習い）として活躍している。研修医、フェローとして教育を受けてきた立場から感じてきたことなどをご発言いただく。	